

006



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：480千円

## ホスピタルアートプロジェクトしずおか

### 目的・趣旨

アートやデザインの力を医療・福祉領域に生かし、患者の文化権の保障、療養環境の改善、及び患者・利用者・職員のエンパワメントを実現する試みとして、病院で芸術活動を実践した。また、院外でもこれらの活動を発信することでアート・デザインの力が医療・福祉・教育等の領域へも生きることや医療・福祉領域での創造活動の可能性を示し、こうした活動の社会的関心を高めることを目的とした。

### 日時・場所

平成29年4月1日から平成30年3月31日  
浜松労災病院、駿府博物館、静岡県立こども病院

### 体制

(実施代表者) 文化政策学部 芸術文化学科 准教授 高島 知佐子

### 共催・後援等

(共催) 浜松労災病院、駿府博物館、静岡県立こども病院  
(協賛) 公益財団法人ベネッセこども基金

## 内容

具体的には次の3つの活動を行なった。①浜松労災病院で、「医療を支えるモノとヒト」をテーマにした写真展を開催した。通院や入院では見ることのできない病院の裏側を浜松在住のカメラマンに撮影してもらい、病院職員に写真選定とキャプション（患者に伝えたいこと）作成をお願いし、院内約10ヶ所に展示した。②静岡県立こども病院で、いきものづくりワークショップを2回行い、その作品を展示した「へんてこテコテコ展-子どもと学生とホスピタルアート」を駿府博物館で開催。その後、展覧会に行けない患者や家族を対象に、同じ展覧会を静岡県立こども病院でも開いた。③このほか、2016年度の活動で行ったWSを神奈川県こども医療センターでも行った。



制作風景



制作風景



チラシ（表）



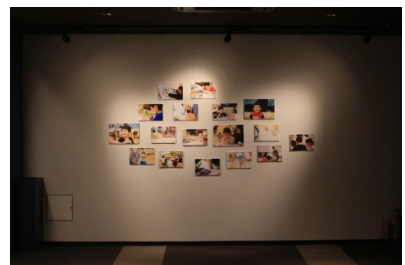
チラシ（裏）

## 結果・成果

①浜松労災病院での活動は、写真展を通して、多くの方に病院や医療に関心を持ってもらえたという意見を病院職員からいただき、患者からも好評だった。新聞社に準備から展示まで取材いただき、発信してもらえたことで、他大学や病院からの問い合わせもあり一定の関心を得ることができた。②静岡県立こども病院では、職員から高い関心が得られ、一般病棟だけではなく閉鎖病棟でもWSを実施できた。博物館での展示は博物館関係の雑誌やSBS系列以外のメディアでも取り上げられ、こちらも他大学や病院からの問い合わせが複数あり、上述の目的を一定程度達成できたと言える。何よりも本活動に参加した患者やその家族が一時的にでも病気から離れ、治療とは関係のない時間を皆で楽しめたことが大きな成果だったと思う。



展示風景



展示風景